

鹿児島県立埋蔵文化財センター
Kagoshima Prefectural Archaeological Center



埋文だより

第7号

平成7年3月20日発行

シラス台地のランドマーク

The landmark on the ash plateau

(国分市上野原遺跡)

桜島^{はる}を遥かに望む台地の上に、1列に並ぶ巨大な穴の正体は？

これは、縄文時代の人々がイノシシなどの獲物を捕るために掘った陥し穴^{おとし}です。

深いもので3m近くもあり、現在のような立派な道具がなかった時代では、このような穴を掘るのは大変な仕事だったことでしょう。

平成6年度 発掘調査速報

Excavation in 1994

本年度県内で行われた発掘調査は、34市町で59件ありました。その中から主なものを紹介しましょう。

遺 跡 名	事業主体者	
・仁田尾遺跡他 (松元町)	建設省	
・山ノ中遺跡 (鹿児島市)		
・中原A遺跡		
・小倉畑遺跡 (始良町)		
・白水A遺跡 (鹿屋市)		
・上野原遺跡 (国分市)	県開発公社	
・本御内遺跡 (国分市)	県教育委員会	
・甲突川川底遺跡 (鹿児島市)	県土木部	
・神野牧遺跡 (鹿屋市)		
・松尾城跡 (宮之城町)		
・中尾遺跡 (吾平町)		
・白糸原遺跡 (金峰町)		
・一湊松山遺跡 (上屋久町)		
・牛の原遺跡		
・三角山I遺跡他 (中種子町)		
・40遺跡 (29市町)		各 市 町

大規模な中世の村落跡

《大口市新平田遺跡》

新平田遺跡は13～14世紀頃の遺跡です。今回の調査で掘立柱建物の柱穴が800以上も見つかり、復元すると20軒以上の建物になります。遺物は、土師器や須恵器・陶磁器などが大量に出土しました。

中世の人々の生活の様子を探るうえで、貴重な遺跡となるでしょう。

(写真提供：大口市教育委員会)

2万年前の調理場!? 旧石器時代の礫群

《松元町仁田尾遺跡》

仁田尾遺跡では、約2万年前の旧石器時代の石器とともに、河原にあるような大小の石がまとまって見つかっています。このような石のまとまりは礫群と呼ばれており、仁田尾遺跡ではこれまでに50か所も発見されています。

礫群の石の多くは赤く変化したりヒビ割れていたりするなど、火を受けた痕跡がみられ、さらに周囲には炭化物片も多いことから、肉などを焼いた「調理場」の跡と考えられています。



発見！古代の水田跡

《垂水市宮下遺跡》

宮下遺跡は、平成5年度から4回にわたって調査が行われ、縄文時代から中世にかけての遺跡であることがわかりました。

今回の調査では、7段の階段状になった水田たなだ（棚田）の跡などが見つかりました。

この水田跡は、約2000～1400年前のものと考えられます。県内では、この時期の水田跡の出土例は少ないため、注目されています。

（写真提供：垂水市教育委員会）



しゅうこうほ 周溝墓 次々に見つかる

《始良町小倉畑遺跡 松元町山下堀頭遺跡》

人間を埋葬した穴の周囲に浅い溝を巡らせた周溝墓は、県内ではこれまであまり報告例がありませんでした。

小倉畑遺跡の周溝墓は約1000年前、山下堀頭遺跡のものは約800年前のものと考えられます。どちらも縦横5 m前後の方形をしており、四隅が丸みを帯びているのが特徴です。



小倉畑遺跡の周溝墓

ただいま整理作業中

縄文文化のジャンクション（交流地点）

《加治木町干迫遺跡》

現在、当センターで整理作業が進められている中で、干迫遺跡の遺物が注目されています。

干迫遺跡では、約3500年前の縄文時代後期を中心とした遺物が、ダンボール箱で5000箱も（県全体の年間の遺物出土量は、約1500箱）出土しています。

出土品の中には、南九州の土器とともに、瀬戸内周辺や九州各地の土器が数多く見られます。このことは、当時の干迫が南九州における人々の交流の中心地であったことを物語っています。



遺物出土状況



縄文時代後期の住居跡群

山城の中に製鉄場（？）

《宮之城町松尾城跡》



松尾城は、14～16世紀に存在した中世の山城です。今回の調査で3基の炉跡が見つかりました。長さ2mの縦長のものが2基と、縦横1mの方形のものが1基です。

炉の中に鉄の塊が入っていることなどから、これらの炉は製鉄か鍛冶に使われたものと考えられます。

（写真提供：宮之城町教育委員会）



週間中でもあり、金峰町を中心に約130名の参加がありました。

遺跡では、中世（約700年前）の掘立柱の建物跡や、古墳時代（約1500年前）の住居跡が見つかっており、参加者は穴だらけの発掘現場に驚いた様子でした。また、「どうして住居跡があるとわかったのですか？」など熱心に質問する人もいました。古代にふれる楽しいひとときになったようです。

古代とのふれあい 現地説明会

《金峰町白糸原遺跡》

白糸原遺跡では、平成6年11月5日(日)に現地説明会を行いました。ちょうど文化財保護強調

古墳時代

Kofun period

弥生時代やよいに続く4世紀から7世紀の約400年間を古墳時代と呼びます。この時代には地上に盛土をした大きな墓が造られました。これは当時の豪族たちが権力を誇るために造ったもので、古墳つか（塚）と呼ばれています。

古墳には、円墳・方墳・前方後円墳などがあります。内部には堅穴式石室や横穴式石室があり、その中に木や石でできた棺ひつぎが納められます。

鹿児島県内の古墳の分布は、志布志湾沿岸と長島・阿久根・川内などの西海岸沿いに集中しています。これらの中で一番古いとみなされるのは、阿久根市の鳥越古墳とりごえで、4世紀の中頃のもので、規模としては、東串良町の唐仁大塚古墳や大崎町の横瀬古墳が、九州内でも5番以内に入る大きさで、全長が100m以上もある前方後円墳です。



県内最大の前方後円墳 唐仁大塚古墳
(東串良町)

また、古墳の他に、南九州には地下式横穴・地下式板石積石室と呼ばれる特殊な墓があります。地下式横穴は、地表から堅穴を掘り、その底から横方向に掘り進めて遺体を置く部屋を造

るもので、大口・北始良から志布志湾沿岸・宮崎平野にかけて分布しています。地下式板石積石室は、地表から堅穴を掘り、底面を板のように扁平な石へんぺいで円形や方形に囲い、その上に同様の石を魚の鱗のように積み上げて石室とするもので、南九州西北部の川内川流域を中心に見られます。このような墓の形態は、鹿児島・宮崎・熊本など南九州特有のもので、



高山町上ノ原地下式横穴の軽石製組合石棺
(県立埋蔵文化財センター)

古墳時代の集落跡は県下全域で発見されていますが、住居内にかまどが存在しないことや、全国的に使用されている土器はじきや須恵器すえきが少ないことなど、生活の様子も他の地域とは異なった特徴が見られます。鹿児島県では、厚手で帯状の文様を巡らすなど独特な形・作り方を示す地域性の強い土器なりかわ（成川式土器）が使用されます。須恵器も多くはありませんが、畿内方面から持ち込まれたと思われるものが、古墳や住居跡から出土しています。しかし、須恵器を焼くための登り窯のぼりがまはまだ発見されていません。

各地の文化財保護に

がんばれ! 第3期長期研修生

Go ahead! Archaeological trainees in 1994

県内各地にある遺跡の数は、平成7年3月現在で6,200か所を超える数になります。最近では、それらの遺跡の近くにも開発の波が押し寄せて来ており、各市町村では遺跡の調査や処置等の対応に追われています。

当センターでは、遺跡の調査に従事する市町村職員の資質向上を図るため、6か月間の長期研修講座を実施しています。センターの開設と共に始まったこの研修では、初年度と次年度に各7名の修了生を送り出しています。第3期となる本年度は、去る11月30日に5名の研修生が巣立っていきました。

研修は、センターでの講義や実習のほか、発掘調査現場での発掘実習にも重点を置いており、体験を主とした内容になっています。暑い最中の発掘調査や講義中の睡魔との戦い、土器・石



講義中は、みんな真剣!?

器製作実習での思い通りにならないもどかしさなど苦しみも多いものの、一方では古代の人々の心に直接触れることの喜びを感じることができます。

これらの経験を経て、長期研修修了生たちは各々の市町村に帰り、遺跡の調査を手がけながら、地域の文化財保護の啓発・普及を推進していくのです。



土器実測は集中力が必要



発掘現場での屋外実習

長期研修講座を受講して

市来町教育委員会 西久保敏彦

長期研修を受けるにあたり、6か月という長丁場を無事に終えようという気持ちと、終えることが出来るのかという不安で頭がいっぱいだった。しかし、毎日たくさんのことを教わり、また二度と出来ないような貴重な経験をし、終わってみると「アッ!」という間だったような気がする。

いろいろな経験の中でも一番強烈だったことは、「石器」でものが切れるということをも身をもって体

験出来たことだ。けっして器用でない私は、石器製作実習中にザックリ手を切ってしまった。この経験から、石器を作ることが容易でないこと、古代の人々もこのように怪我をしたであろうことが理解出来た。それと同時に先人達の偉大さを感じた。

最後に、ともに6か月を過ごした第3期長研生と、私達にご指導下さった埋文センターの先生方へお礼の言葉で終わりたいと思う。

「6か月間どうもありがとうございました。これからもよろしくお願いします。」

ぼくらのタイム・トリップ

Encounter our ancient past

昨年5月から11月にかけて、6回にわたって行われた第2回県民セミナーは、延べ326名の方々に参加していただき、好評のうちに終了しました。

そこで今回は、セミナーの体験学習（国分市上野原遺跡）や講座に参加した方の感想を中心にまとめてみました。

〔体験学習の感想文から〕

* 私は7班だった。7班の掘る場所が一番多く遺物が出てくるところだときいて、さっそく掘った。掘っても掘っても出てこない。私はもういやになってきた。その時、「カチッ」と音がした。竹ベラで注意しながら掘ると、赤い色で三角形をした土器のかけらだった。私はとても言葉に表せないほど感激した。その後いっしょうけんめい掘って7つも見つけた。お姉ちゃんにもお父さんにもじまんでくれるぞと思った。(重富小5年伊集院悠美さん)



鹿児島大学教育学部附属小4年 重松 聡くんの作品

* おとし穴の深さにはびっくりしました。どんな動物がとれたんだろうか。料理する時は、ガスもなくたいへんだったろうな。包丁などもなくて、昔の人はいろいろくふうをして、石で作ったりしてとてもえらかったと思います。

私は、今回のタイムトリップに参加して、これからの勉強にとっても役に立つと思います。遺跡を見たり、実際に発掘して、手でさわったりしたことを思いだし、昔の人たちの近くに行ったような気持ちになると思います。(谷山小4年 鬼塚臨理恵さん)



落ちたら、上がれないかも…（上野原遺跡）

〔セミナー終了後のアンケートから〕

- ・ 歴史とか考古学には興味をもっていましたが、本セミナーに参加して系統的な勉強ができました。
- ・ 参考になる本を紹介してほしい。
- ・ 発掘調査は根気のいる仕事だが、ロマンがあると感じた。
- ・ 「考古学」と聞いただけで難しいものだと思っていたが、より身近に感じた。
- ・ 発掘体験学習の回数を増やしてほしい。
- ・ 何万年も昔から、人は人としての生き方を追求しており、現在に生きる私達が学ぶべき点が多いと思います。

これらの感想・意見をふまえ、来年度は内容をより充実させていきたいと考えています。



誕生！ 『埋文友の会』

県民セミナー受講者を中心に、考古学についての知識・理解を深めることを目的とした『埋文友の会』が発足します。会員は現在42名で、平成7年4月22日(土)の発会式にむけ準備を進めており、すでに2回の講座を開催しました。以後は埋蔵文化財センターを活動拠点として、年6回程度の講座・研修旅行等を行っていく予定です。

よろしく！シンボルマーク

Hello! Our symbol mark



平成4年4月の開所以来、多くの方々に活用されている当センターでは、より親しみやすい施設づくりを目指し、シンボルマークを制定しました。

このマークは、県内5校の職業系高校デザイン科生徒の作品33点の中から、鹿児島城西高校2年平石智恵子さんのデザインをもとに作られました。

現在・過去・未来を表す古代の壺形土器が互いに重なり合い、それらをだ円の中に包み込むことで埋蔵文化財保護を表しています。



県教育庁で行われた表彰式

(最優秀賞の平石智恵子さん)

主なできごと

Highlights in the institute

◎ 埋蔵文化財技術研修講座（後期）

平成6年12月12日(月)～13日(火)

受講者 26名

「発掘調査における機器の応用」

講師 福岡大学教授 小田富士雄

肝属郡東串良町の唐仁大塚古墳で、磁気レーダーによる埋もれた周濠（古墳の周囲に掘られた濠）の探査などを見学しました。



1. 磁気レーダーを
ひっぱると
・・・

2. 地下の様子が、
このとおり！



◎ 平成6年度長期研修講座（6ページ参照）

平成6年6月1日(木)～11月30日(木)

受講者（写真右から）

- ・坂口 浩一（南種子町教育委員会）
- ・沖田純一郎（西之表市教育委員会）
- ・鶴飼 一伸（垂水市教育委員会）
- ・河北 篤司（阿久根市教育委員会）
- ・西久保敏彦（市来町教育委員会）



埋文だより 第7号

鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-56

鹿児島県始良郡始良町平松6252

TEL 0995(65)8787

FAX 0995(65)8117